

平成23年度第1四半期決算概要

23年8月

頭取 中西勝則

Dream with you.



静岡銀行



目次

23年度第1四半期決算の概要

●第1四半期決算の状況		1
●資金利益		2
●預貸金利回り		3
●貸出金		4
●有価証券		5
●預金等		6
●手数料、預り資産		7
●経費		8
●与信費用		9
●リスク管理債権		10
●自己資本比率		11
●株主還元		12
●自己株式取得		13

参考資料

●収益モデルの構築① ～貸出金・預金等		14
●収益モデルの構築② ～有価証券		15
●収益モデルの構築③ ～法人向け営業（地域密着型金融）		16
●収益モデルの構築④ ～個人向け営業（消費者ローソの成長、預り資産）		17
●生産性の向上		18
●業種別貸出金		19
●リスク資本配賦		20
●グループ会社の状況		21

第1四半期決算の状況

【連結】

(億円)	22年度 実績	前期比
経常収益	2,090	△55
経常利益	642	+103
当期純利益	362	+34

3期連続減収

2期連続増益

2期連続増益

23年度 計画	前期比
2,100	+10
645	+3
370	+8

23年度第1四半期		
実績	前年 同期比	進捗率 (年度ベース)
594	+43	28.3%
239	+50	37.1%
144	+40	38.9%

【静岡銀行単体】

(億円)	22年度 実績	前期比
経常収益	1,793	△67
業務粗利益	1,514	△6
うち資金利益	1,282	△11
うち役務取引等利益・特定取引利益	142	△15
うち国債等債券関係損益	66	+14
経費 (△)	810	+16
一般貸倒引当金繰入額 (△)	△13	△96
業務純益	717	+74
実質業務純益※1	704	△23
基礎的業務純益※2	638	△36
不良債権処理額 (△)	108	△41
株式等関係損益	△12	△41
経常利益	587	+82
特別損益	△6	△10
当期純利益	354	+32

3期連続減収

7期振り減益

2期連続増益

2期連続増益

2期連続増益

23年度 計画	前期比
1,730	△63
1,482	△32
1,259	△23
164	+22
40	△26
819	+9
△57	△44
720	+3
663	△41
623	△15
107	△1
10	+22
600	+13
0	+6
360	+6

23年度第1四半期		
実績	前年 同期比	進捗率 (年度ベース)
513	+34	29.7%
424	+6	28.6%
342	+12	27.2%
36	+3	22.0%
51	+1	127.5%
208	△3	25.4%
0	+7	—
217	+2	30.1%
217	+9	32.7%
166	+8	26.6%
4	△19	3.7%
△17	△2	△170.0%
221	+47	36.8%
2	+7	—
139	+38	38.6%

与信費用 (△)	96	△137
----------	----	------

50	△46
----	-----

△22	△38	△44.0%
-----	-----	--------

※1 実質業務純益＝業務純益＋一般貸倒引当金繰入額

※2 基礎的業務純益＝業務純益＋一般貸倒引当金繰入額－国債等債券関係損益

資金利益

- 23年度第1四半期 資金利益342億円（前年同期比+12億円）
うち国内業務部門308億円（同 +8億円）、国際業務部門34億円（同 +4億円）

資金利益の内訳

（億円）

	22年度 第1四半期	23年度 第1四半期	増減
合 計	330	342	+12
国内業務部門	300	308	+8
うち貸出金利息	262	254	△7
〃 有価証券利息配当金	58	66	+8
〃 預金等利息（△）	19	12	△7
国際業務部門	30	34	+4

国内業務部門

（％）

	22年度 第1四半期	23年度 第1四半期	増減
貸出金利回り	1.72	1.61	△0.11
預金等利回り	0.11	0.06	△0.05
有価証券利回り	1.79	1.73	△0.06

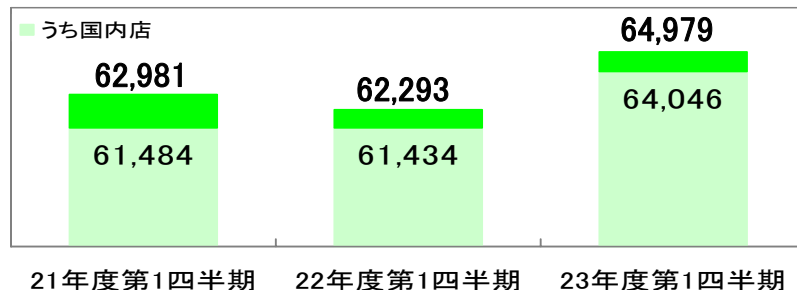
国際業務部門

（％）

	22年度 第1四半期	23年度 第1四半期	増減
運用・調達レート差	1.55	1.80	+0.25

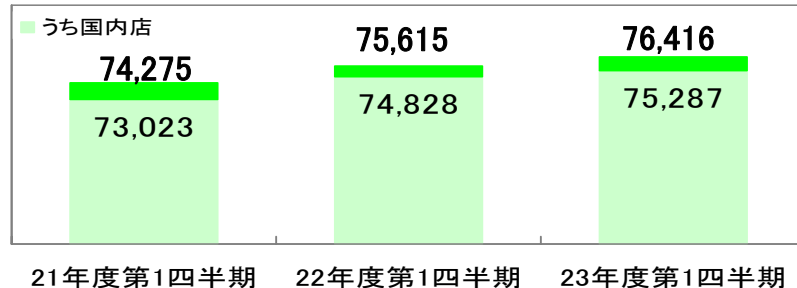
貸出金平残の推移

（億円）



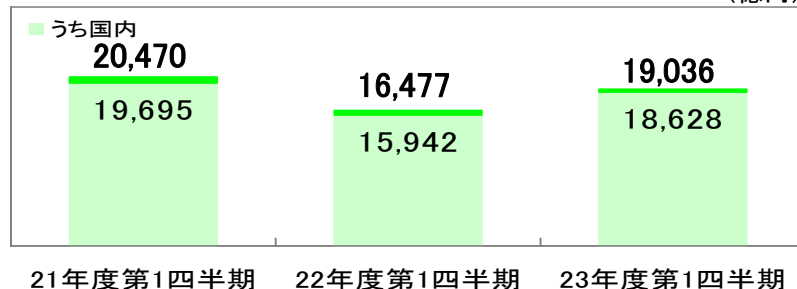
預金等平残の推移

（億円）



有価証券平残の推移

（億円）



預貸金利回り

- 23年6月の預貸金利回り差は、23年3月比 $\Delta 0.02$ ポイント縮小

円貨貸出金・預金構成の変化

【23年3月と23年6月の平残・利回りの単月比較】

〔23年3月〕 $\Delta 0.02$ 〔23年6月〕 (兆円、%)

	平残(構成比)	利回り	平残(構成比)	利回り
貸出金	6.3 (100.0)	1.63	6.3 (100.0)	1.61
変動金利	4.8 (75.6)	1.58	4.8 (75.7)	1.56
短プラ・新長プラ基準	3.0 (47.5)	2.03	3.0 (47.5)	2.00
市場連動	1.7 (26.7)	0.74	1.7 (26.6)	0.73
固定金利	1.5 (24.4)	1.80	1.5 (24.3)	1.76

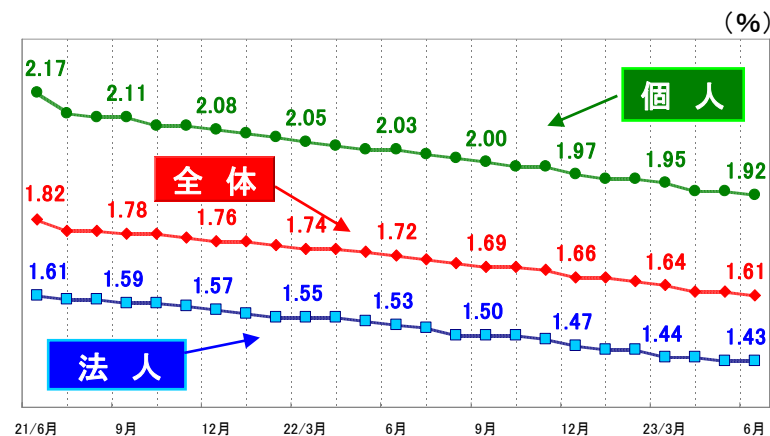
〔預貸利回り差〕 $+1.57$ $\Delta 0.02$ $+1.55$

預金	7.4 (100.0)	0.06	7.4 (100.0)	0.06
流動預金	4.0 (54.2)	0.02	4.0 (54.0)	0.02
定期性預金	3.0 (40.0)	0.12	3.0 (40.9)	0.12

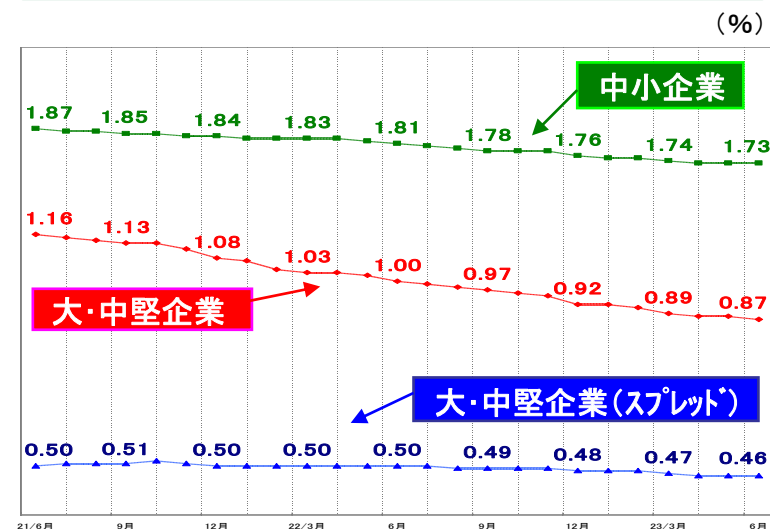
※預金はNCDを含む

± 0.00

貸出金利（月中平均）の推移



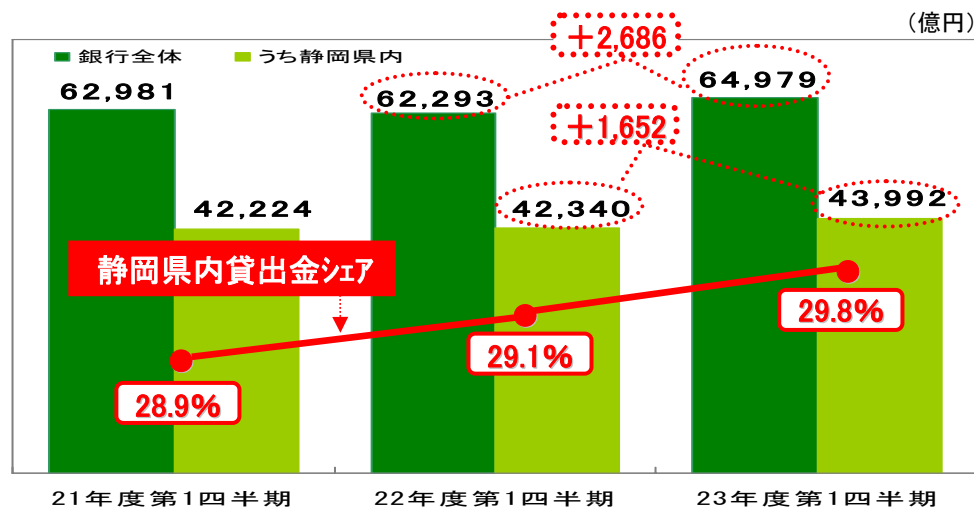
うち企業規模別法人貸出金利の推移



貸出金

- 23年度第1四半期の貸出金残高（平残）6兆4,979億円、前年同期比+2,686億円（年率+4.3%）

貸出金残高(平残)の推移



【中小企業向け貸出】

平残 2兆6,180億円

前年同期比+723億円増加（年率+2.8%）

【個人向け貸出】

平残 2兆2,146億円

前年同期比+822億円増加（年率+3.9%）

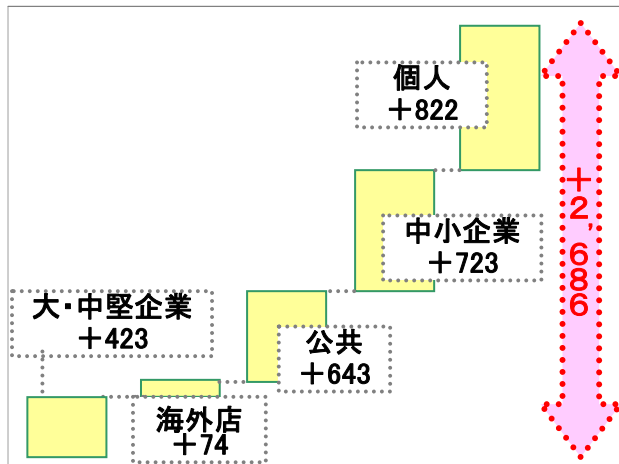
貸出金残高（末残）6兆5,368億円

22年6月末比+2,416億円増加(年率+3.8%)

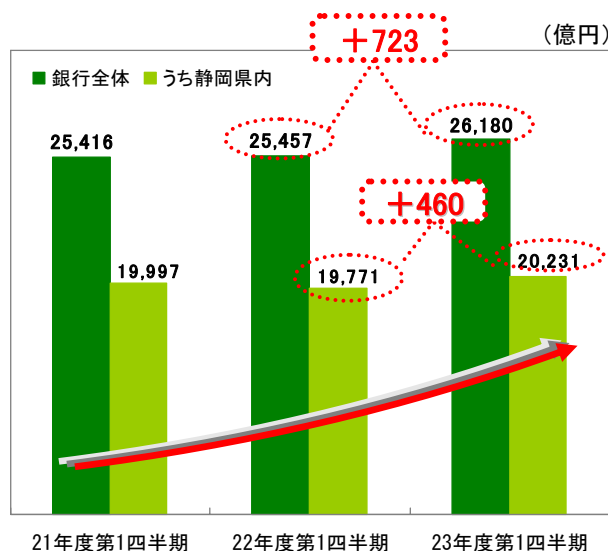
企業規模別 貸出金残高(平残)の増減

【貸出金増減額内訳(前年同期比)】

(億円)



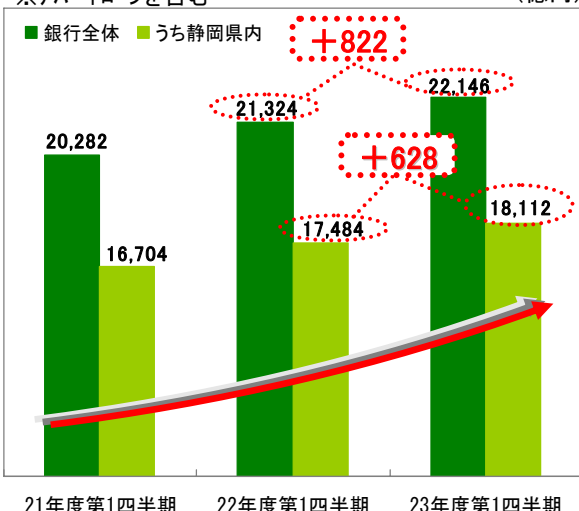
うち中小企業向け貸出金残高(平残)の推移



うち個人向け貸出金残高(平残)の推移

※アパートローンを含む

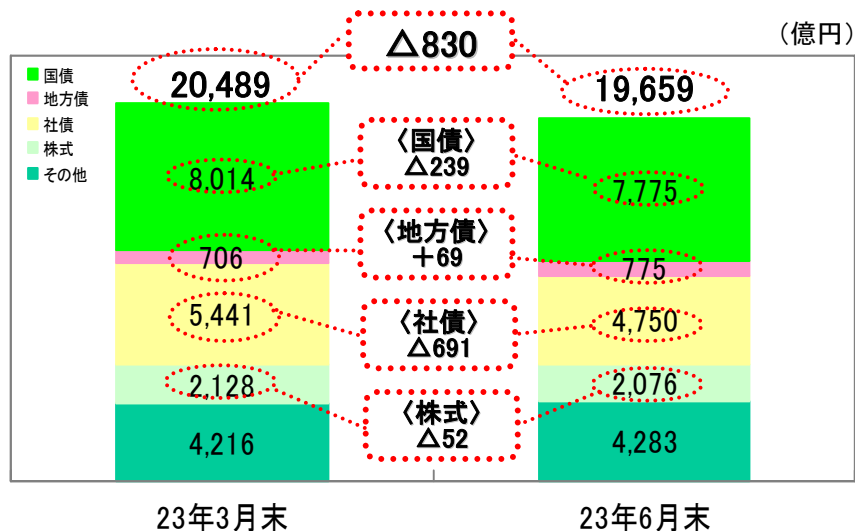
(億円)



有価証券

- 有価証券残高 1兆9,659億円（23年3月末比△830億円）、有価証券評価損益 1,086億円（同 +54億円）
- 国債等債券関係損益 51億円（前年同期比 + 1億円）、株式等関係損益 △17億円（同 △ 2億円）

有価証券残高の推移



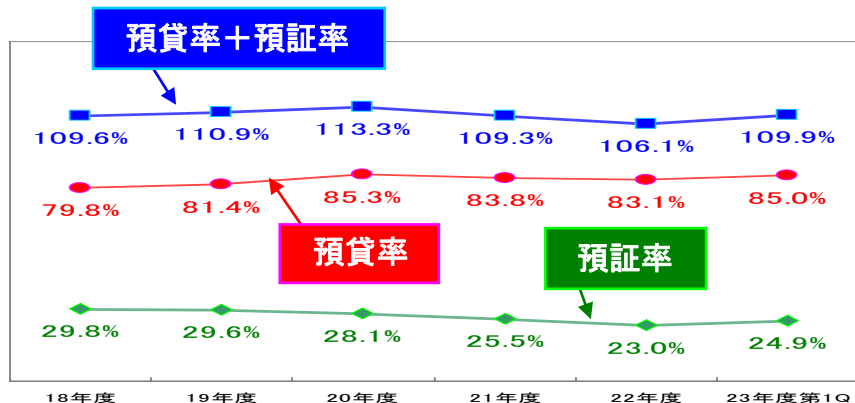
債券デューション・有価証券評価損益の推移

	23年3月末	23年6月末
円債デューション	5.03年	5.21年
外債デューション	2.18年	1.33年
有価証券評価損益	1,032億円	1,086億円
うち株式	903億円	868億円
日経平均株価	9,755.10円	9,816.09円

国債等債券関係損益の内訳

	22年度 第1四半期	23年度 第1四半期	増減
国債等債券関係損益	50	51	+1
うち国債等債券売却益	53	55	+2
〃 国債等債券売却損(△)	3	4	+1

預貸率・預証率の推移



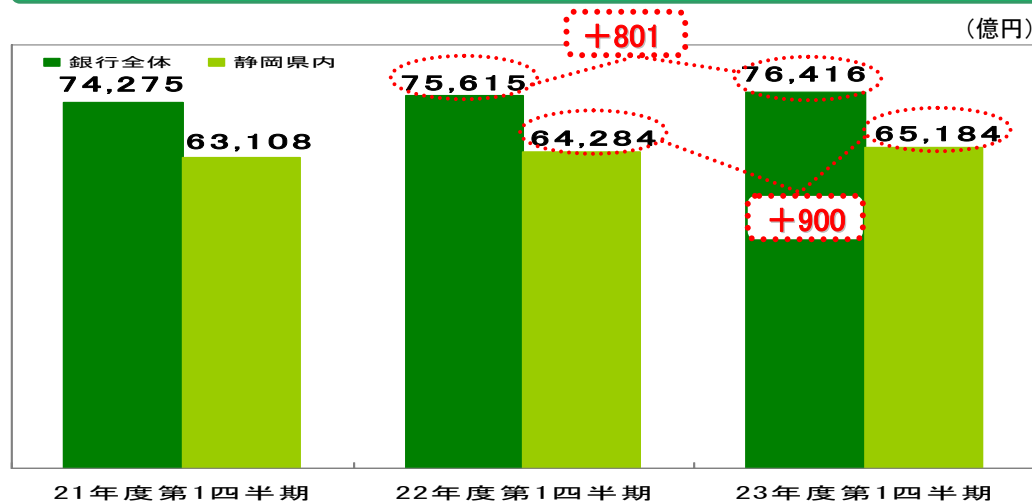
株式等関係損益の内訳

	22年度 第1四半期	23年度 第1四半期	増減
株式等関係損益	△14	△17	△2
うち株式等売却益	0	0	△0
〃 株式等売却損(△)	—	0	+0
〃 株式等償却(△)	15	16	+1

預金等

- 23年度第1四半期の預金等残高（平残）7兆6,416億円、前年同期比+801億円（年率+1.1%）

預金等残高（平残）の推移



【静岡県内預金】

平残6兆5,184億円

前年同期比+900億円増加（年率+1.4%）

【個人預金】

平残5兆2,411億円

前年同期比+786億円（年率+1.5%）

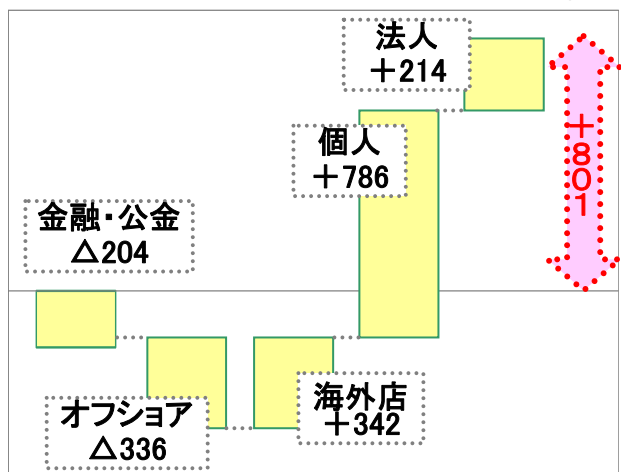
【法人預金】

平残1兆9,402億円

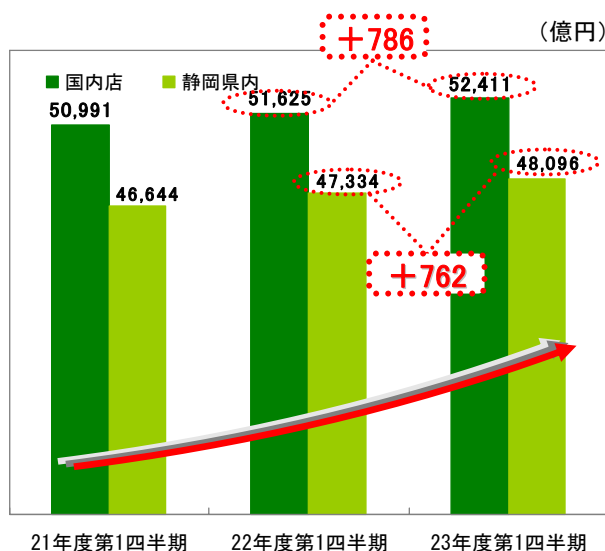
前年同期比+214億円増加（年率+1.1%）

預金等残高(平残)増減額の内訳

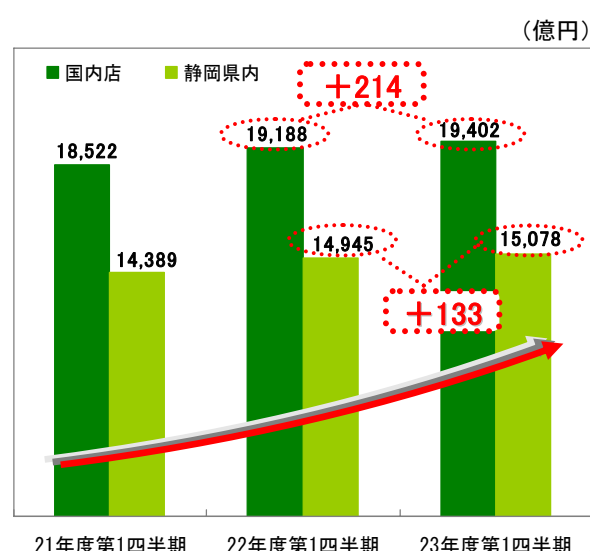
【預金等増減額内訳(前年同期比)】



うち個人預金等残高(平残)の推移



うち法人預金等残高(平残)の推移

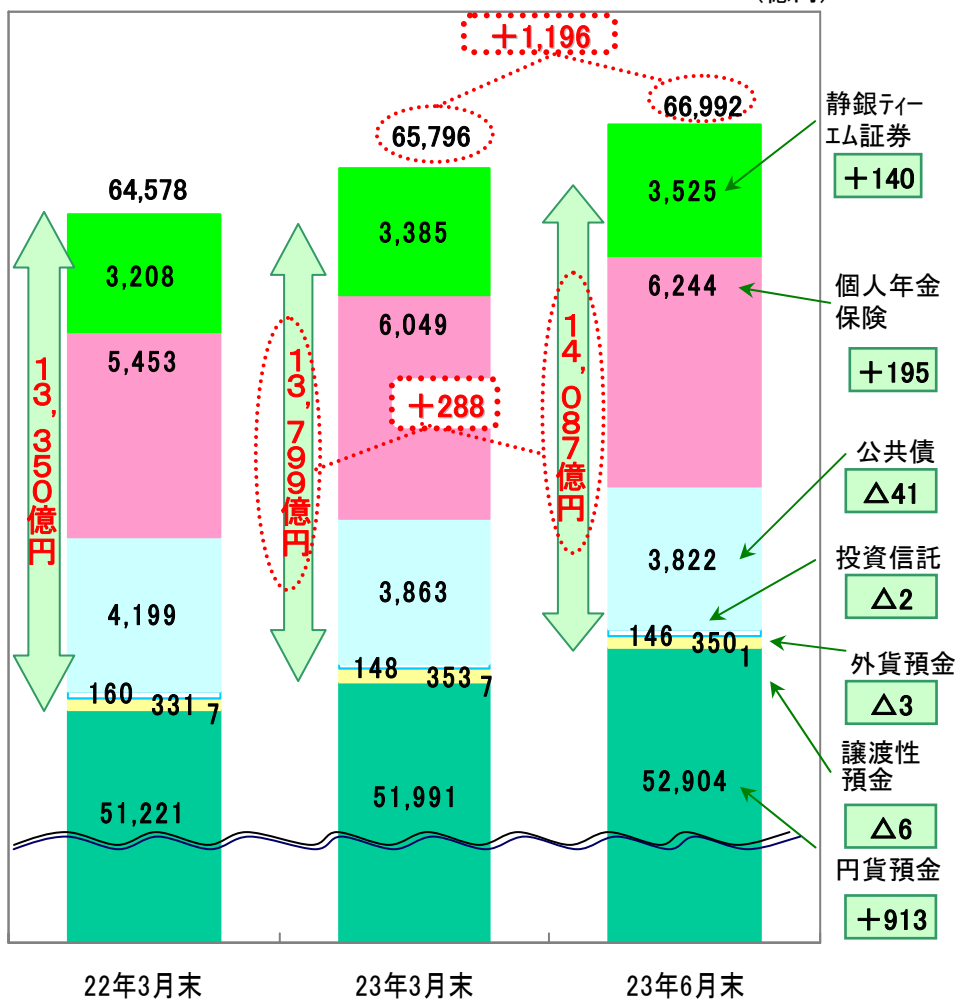


手数料、預り資産

- 個人預り資産残高（静銀ティーエム証券含む）6兆6,992億円（23年3月末比+1,196億円）
うち資産運用商品残高 1兆4,087億円（同 +288億円）
- 23年度第1四半期の投資信託・個人年金保険の販売額は、リーマンショック前の水準を上回るペースで推移

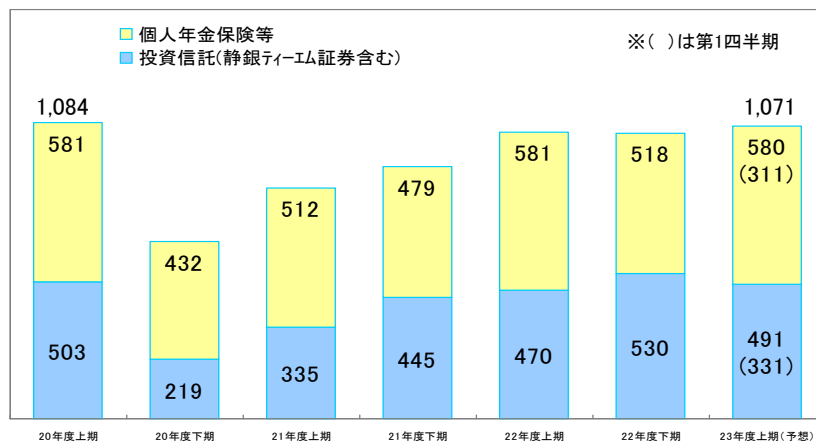
個人預り資産（末残）の推移

（億円）



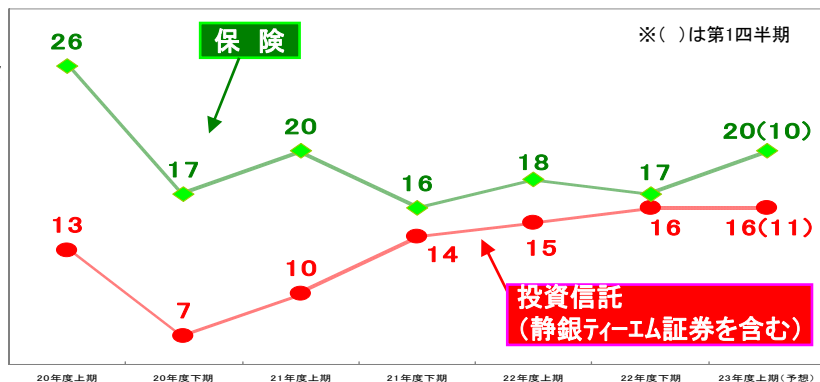
投資信託・保険の販売額

（億円）



投資信託・保険販売手数料の推移

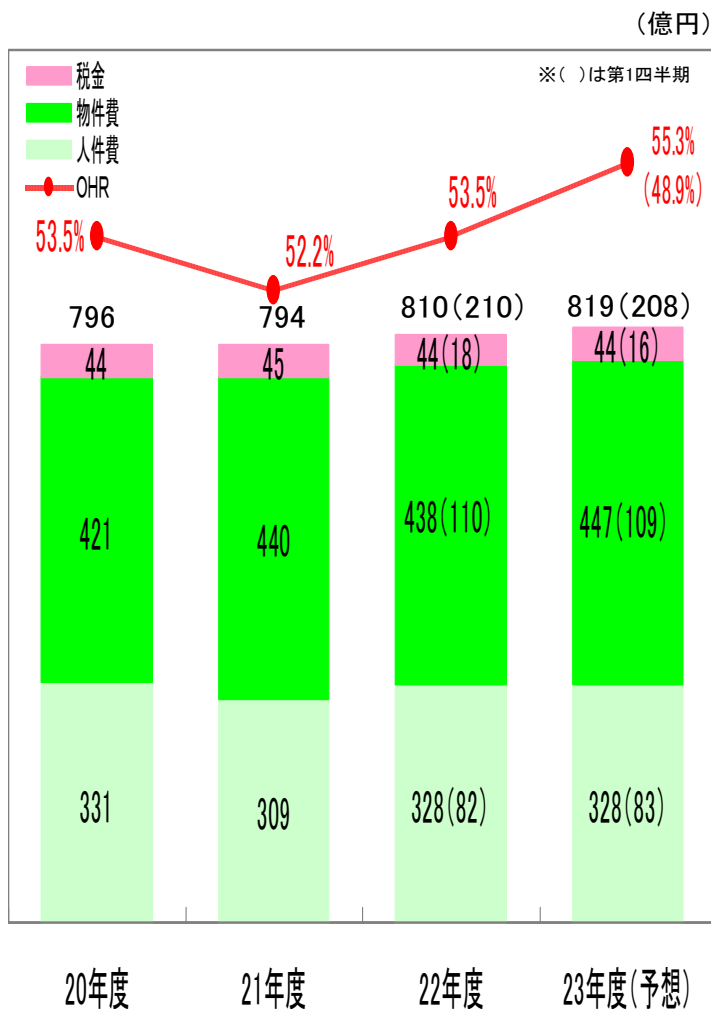
（億円）



経費

- 23年度第1 四半期 208億円（前年同期比△2億円）
- 23年度第1 四半期 OHR（単体）48.9%（前年同期比△1.3ポイント）

経費およびOHRの推移



物件費の推移

（億円）

	20年度	21年度	22年度	23年度上期 (予想)	23年度 第1四半期
物件費	421	440	438	225	109
システム関連	130	144	144	73	37
事務委託・外部委託費	79	80	79	40	20
その他	212	216	215	112	52

〔ご参考〕 人員の推移

（人）

	20年 3月末	23年 3月末	20年 3月末比	26年3月 (予想)
営業店フロント	2,411	2,989	+578	3,116
うち行員	1,794	2,205	+411	2,325
営業店バック・アシスト	1,693	1,097	▲596	989
うち行員	548	90	▲458	35
本部・融資業務センター・その他	1,060	885	▲175	855
うち行員	509	560	+51	535
銀行全体	5,164	4,971	▲193	4,960
うち行員	2,851	2,855	+4	2,895
グループ総人員	7,037	7,067	+30	7,049

与信費用

●23年度第1四半期与信費用△22億円（前年同期比△38億円）、与信費用比率△0.13%（同△0.23ポイント）

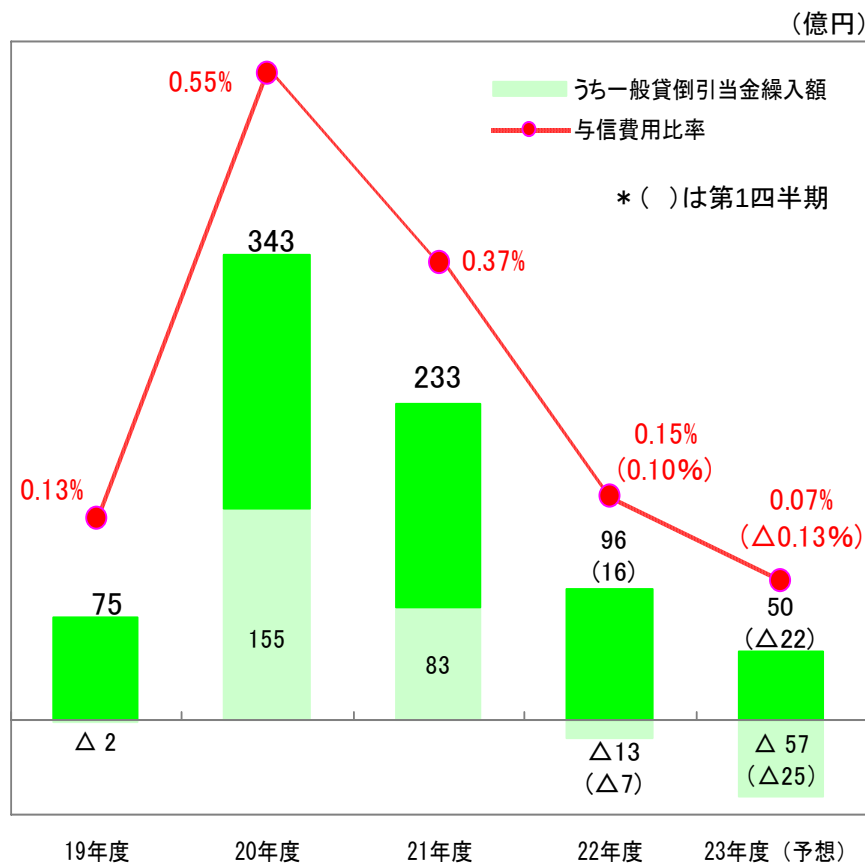
一般貸倒引当金繰入額 △25億円（前年同期比 △18億円）

不良債権処理額 4億円（ // △19億円）

うち個別貸倒引当金繰入額 △0.4億円（ // △20億円）

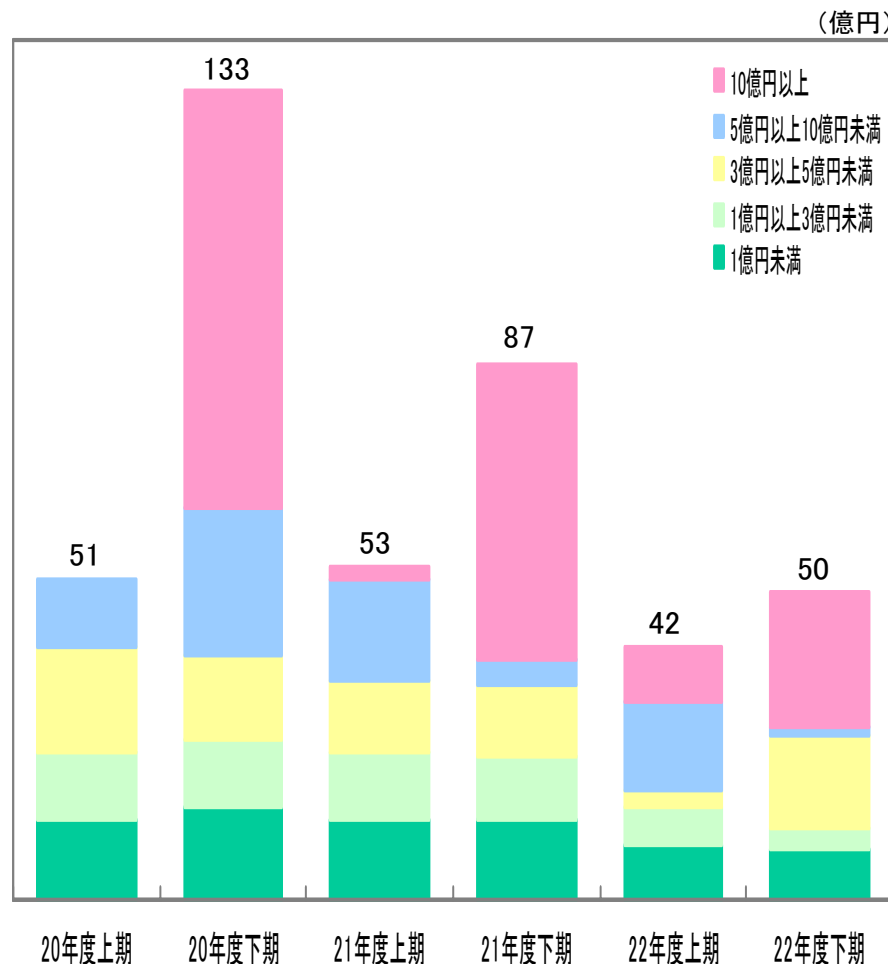
（※）決算処理上は、臨時損益における貸倒引当金戻入益として計上

与信費用・与信費用比率の推移



※与信費用＝不良債権処理額＋一般貸倒引当金繰入額
与信費用比率＝与信費用÷貸出金平残

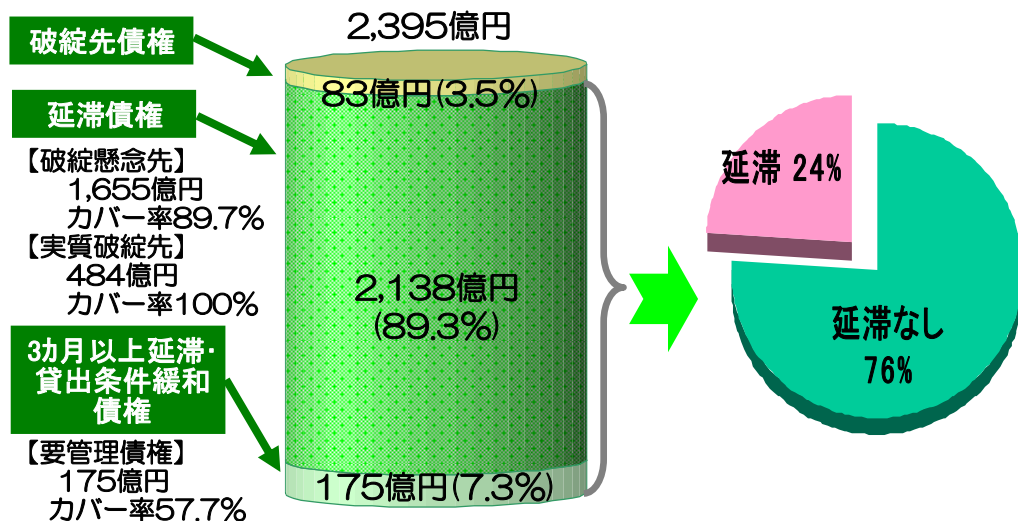
与信残高金額階層別の個別貸倒引当金新規発生額推移



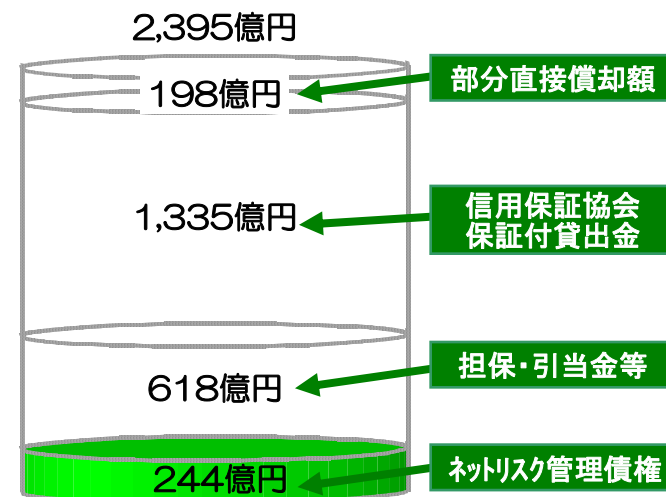
リスク管理債権

- リスク管理債権の総額（単体） 2,395億円（23年3月末比 △30億円）
- リスク管理債権比率 3.66%（同 +0.02ポイント）
- ネットリスク管理債権（単体） 244億円（同 △19億円）
- ネットリスク管理債権比率 0.37%（同 △0.03ポイント）

23年6月末リスク管理債権の内訳



ネットリスク管理債権



不良債権のオフバランス化実績

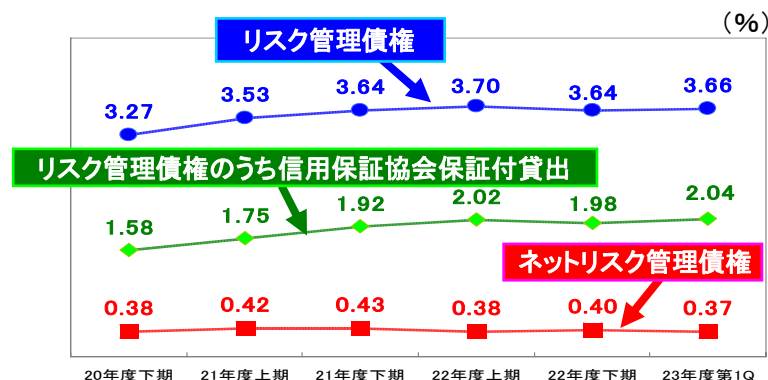
(億円)	22年度	23年度 第1四半期
新規発生	+721	+145
オフバランス化 (うち破綻懸念先以下)	△591 (△551)	△175 (△153)
リスク管理債権	2,425	2,395

△30

【153億円の内訳】

本人弁済・預金相殺	29
担保処分・代位弁済	57
格上	67
債権売却	0
直接償却	0

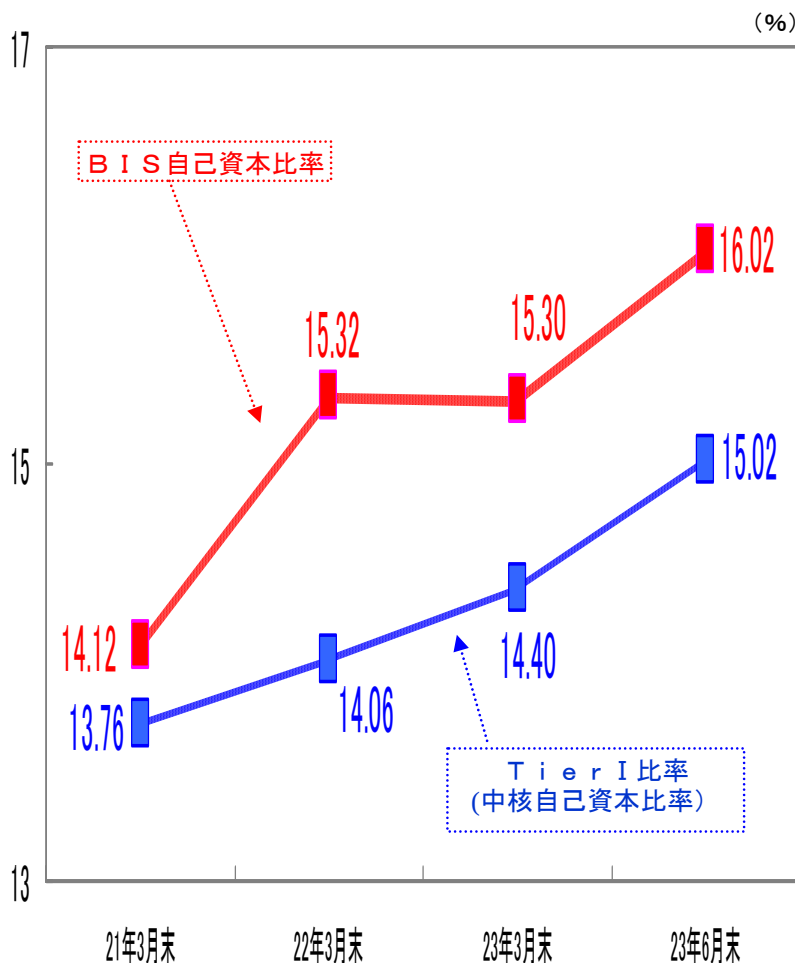
リスク管理債権比率推移



自己資本比率

- 23年6月末 バーゼルⅡによる自己資本比率 16.02%（23年3月末比+0.72ポイント）
- Tier I 比率（中核自己資本比率） 15.02%（同 +0.62ポイント）
- 22年9月末を基準に第2回定量的影響度調査(QIS)を実施した結果、規制水準を大きく上回る水準を確保

B I S自己資本比率(連結ベース)



自己資本およびリスク・アセット等の推移

(億円)

	21年 3月末	22年 3月末	23年 3月末	23年 6月末	23年 3月末比
自 己 資 本 ※	6, 234	6, 878	6, 861	6, 895	+34
うち Tier I	6, 078	6, 314	6, 459	6, 463	+4
うち Tier II	291	676	507	536	+29
リスク・アセット等	44, 148	44, 889	44, 829	43, 013	△1, 816
信用リスク・アセットの額	40, 946	41, 663	41, 628	39, 801	△1, 827
マーケット・リスク相当額に係る額	248	205	165	176	+11
オペレーショナル・リスク相当額に係る額	2, 954	3, 021	3, 036	3, 036	±0
フロア調整額	—	—	—	—	—

※ 自己資本には、優先株、劣後債務等を含まない

アウトライヤー比率（単体ベース）

銀行勘定の金利リスク量	Tier I + Tier II	アウトライヤー比率
581億円	6, 698億円	8. 68%

株主還元

- 22年度1株当たり配当額 13円（配当性向24.85%、配当利回り1.88%）
- 株主配当については、23年度も「配当性向25%程度かつ大手地銀最高水準」の配当維持を目指し、市場動向、業績等を勘案し決定する方針のもと、1株当たり配当額（年間）13円（配当性向 23.7%程度）を予定
- 23年度第1四半期には、20百万株（取得総額 146億円）の自己株式取得を実施済み

配当額の推移

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度予想
一株当たり配当額(年間)	13.00円	13.00円	13.00円	13.00円	13.00円(6.50円)
配当利回り(配当/期末株価)	1.10%	1.47%	1.59%	1.88%	—

() は中間配当額

株主への利益配分の状況

	20年度	21年度	22年度	23年度 (予想)	13～22年度実績 (10年間)
年間配当額①	91	91	88	85	729(累計)
自己株式取得額②	—	40	150	※146	715(累計)
株主還元額③=①+②	91	131	238	231	1,445(累計)
当期純利益④	128	321	354	360	2,648(累計)
配当性向①/④×100	70.85%	28.20%	24.85%	23.68%	27.55%(平均)
株主還元率③/④×100	70.85%	40.64%	67.22%	—	54.56%(平均)

※23年度自己株式取得額は第1四半期までの実績

自己株式取得

- 9年度以降、継続的に自己株式取得を実施、23年6月末までに151百万株を取得
- 23年度第1四半期には、20百万株（取得総額 146億円）の自己株式取得を実施済み

過去の自己株式取得実績

	取得株式	取得金額	消却株数	消却金額	株主還元率
9年度	7,226千株	9,997百万円	7,226千株	9,997百万円	90.3%
10年度	6,633千株	9,142百万円	6,633千株	9,142百万円	86.7%
11年度	8,357千株	9,143百万円	8,357千株	9,143百万円	51.4%
12年度	24,954千株	23,281百万円	24,954千株	23,281百万円	152.0%
13年度	8,234千株	8,267百万円	8,234千株	8,267百万円	165.4%
14年度	29,928千株	23,107百万円	—	—	229.4%
15年度	10,712千株	8,566百万円	30,000千株	23,381百万円	50.8%
16年度	—	—	—	—	17.1%
17年度	—	—	—	—	22.5%
18年度	—	—	—	—	25.3%
19年度	10,000千株	12,621百万円	10,000千株	10,130百万円	61.8%
20年度	—	—	—	—	70.8%
21年度	5,000千株	3,996百万円	5,000千株	4,638百万円	40.6%
22年度	20,000千株	14,980百万円	20,000千株	15,957百万円	67.2%
累計	131,044千株	123,102百万円	120,404千株	113,938百万円	62.8%
23年度	※20,000千株	※14,575百万円	—	—	—

・株主還元率＝(年間配当額＋自己株式取得額)÷当期純利益×100

※23年度取得株式数等は第1四半期までの実績

参考資料

Dream with you.

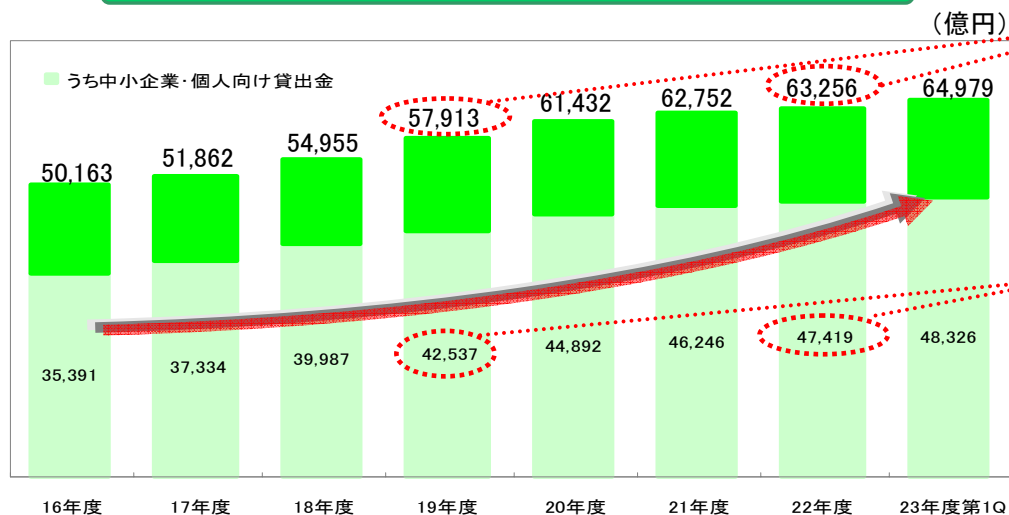


静岡銀行

収益モデルの構築① ～貸出金・預金等

- 20～22年度の3年間で貸出金は+5,343億円、預金は+4,965億円とバランスよく増加
- 23年度第1四半期も、引き続き増加基調を維持
- 預貸率と預証率の合計は100%以上を維持

貸出金平残



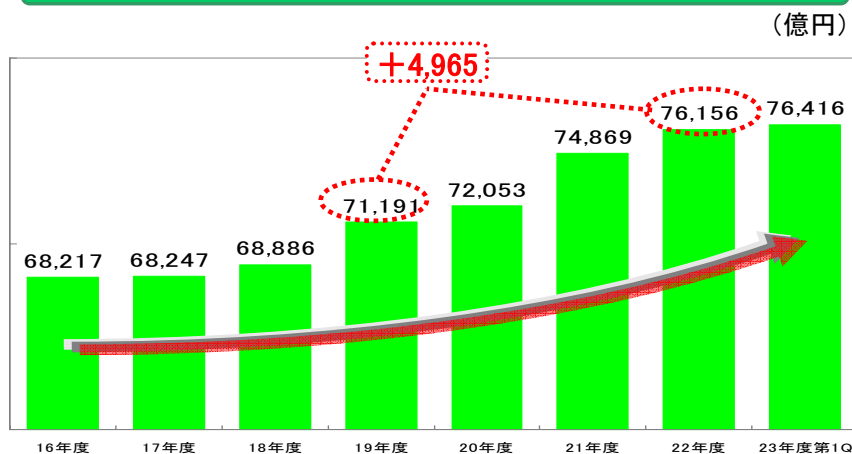
貸出金平残+5,343億円

- 第9次中計からの6年間では、約1兆3,000億円の増加
足元の残高についても、順調に増加基調を維持している
- 23年度第1四半期貸出金 6兆4,979億円
(22年度比+1,723億円)

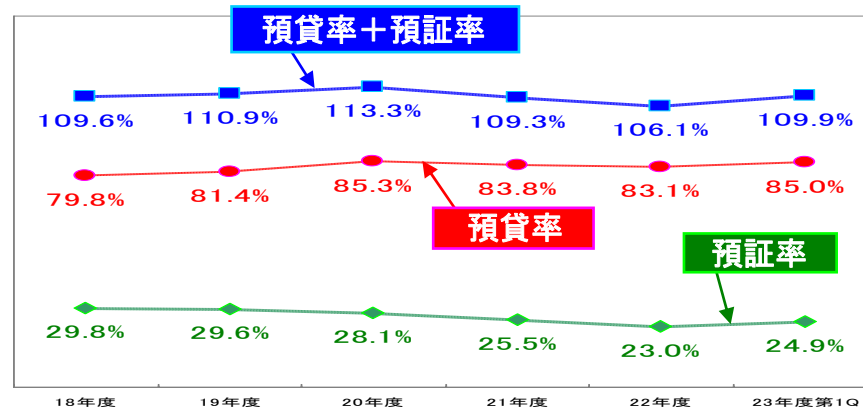
中小企業・個人貸出金平残+4,882億円

- 貸出金増加の大半は、中小企業・個人向け貸出による増加
であり、首都圏での低スプレッド貸出は抑制方針とした
- 23年度第1四半期中小企業・個人貸出金 4兆8,326億円
(22年度比+907億円)

預金等平残



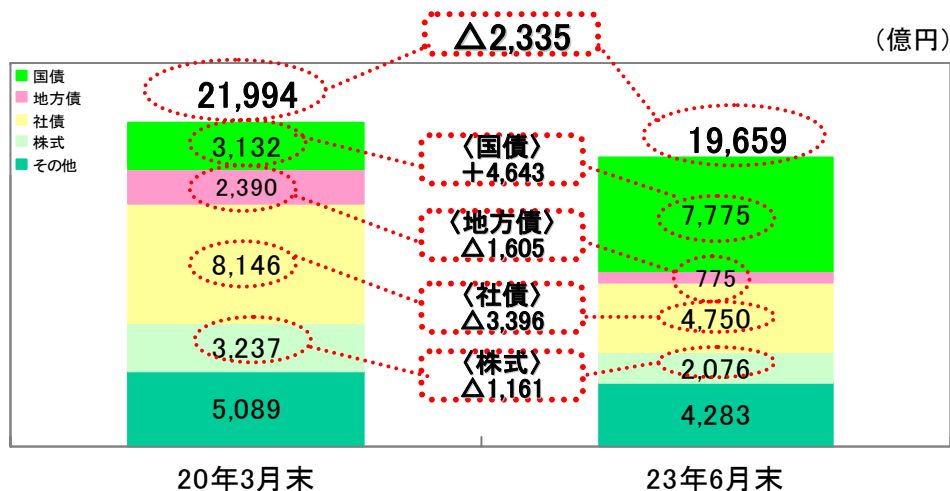
預貸率・預証率の推移



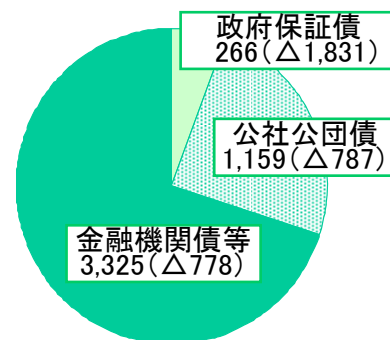
収益モデルの構築② ～有価証券

- 預貸率を高めたことにより、有価証券運用の調達原資の一部が市場からの調達となり、相場動向に応じた機動的な売買によりキャピタルゲインを獲得する運用がポートフォリオの一部で可能となった
- 20年度から22年度までの3年間で、国債等債券関係損益は+131億円の増加

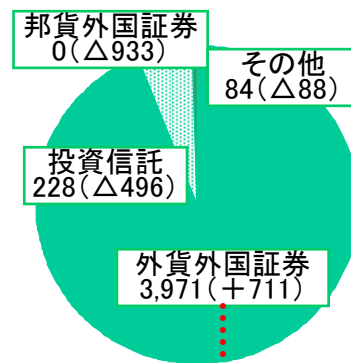
有価証券残高の推移



社債4,750億円の内訳
(20年3月末比△3,396億円)



その他4,283億円の内訳
(20年3月末比△806億円)



※ () 内は20年3月末比

有価証券関係損益

(億円)

	19年度 (A)	20年度	21年度	22年度 (B)	(B)－(A)	23年度 第1Q
有価証券 利息配当金	386	350	311	307	△79	99
国債等債券 関係損益	△65	1	52	66	+131	51
合 計	321	351	363	373	+52	150

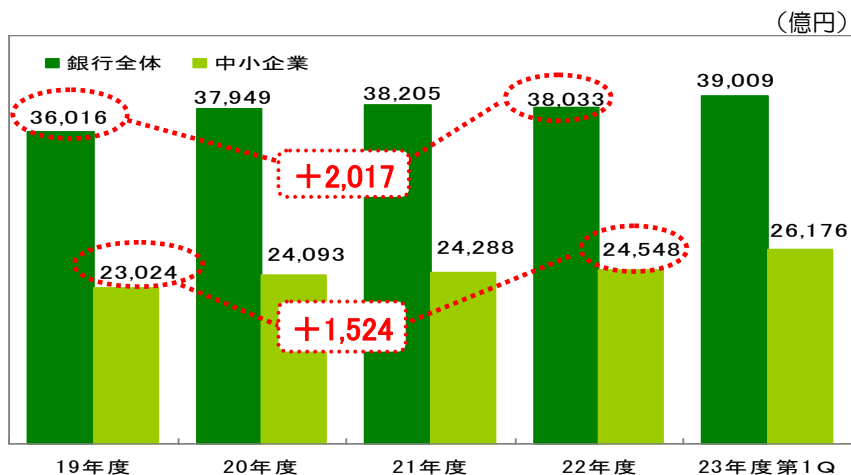
(億円)

うちモーゲージ債の内訳			
	(簿価)	20年3月末比	(評価損益)
ジニーメイ	3,615	+1,325	+82
ファニーメイ	0	△38	—
フレディマック	0	△301	—

収益モデルの構築③ ～法人向け営業(地域密着型金融)

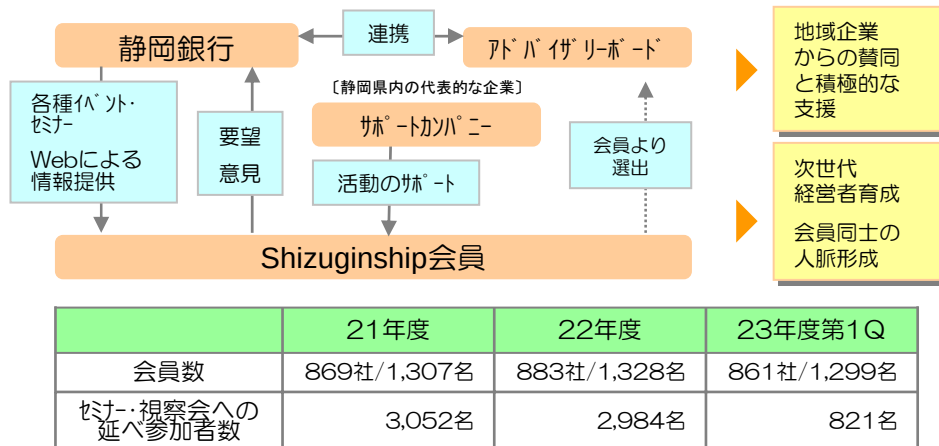
- 法人分野においては、ビジネスマッチング、次世代経営者塾「Shizuginship」、経営改善・事業再生支援を3つの柱とし、先進的な取組みを通じたリレーション強化による当行独自のビジネスモデルを構築。取組みの成果は、中小企業向け貸出の増加などに着実に現れている

法人貸出金（平残）推移

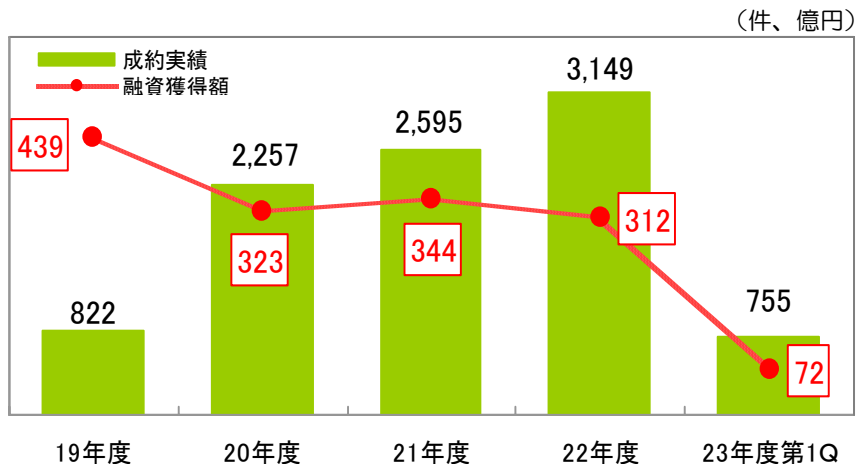


次世代経営者塾「Shizuginship」

- 先進的な取組みとして、23年3月に東海財務局より顕彰

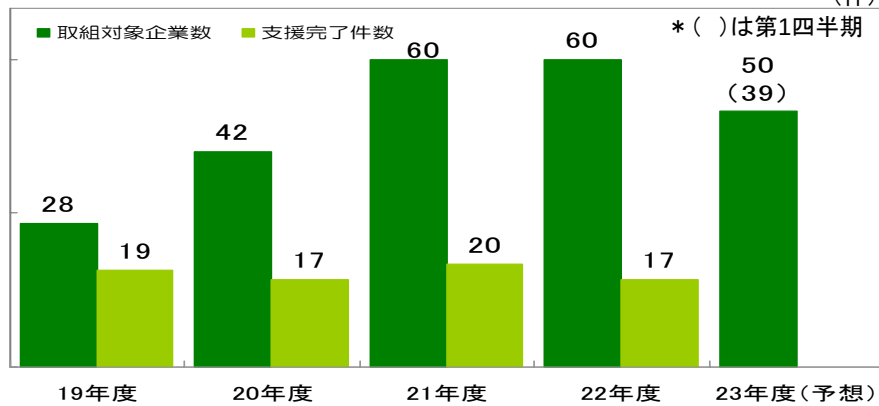


ビジネスマッチングの成約実績および融資獲得額



事業再生支援への取り組み

- M & A、DDSなどの手法に加え、静岡県中小企業再生支援協議会の調整機能を活用

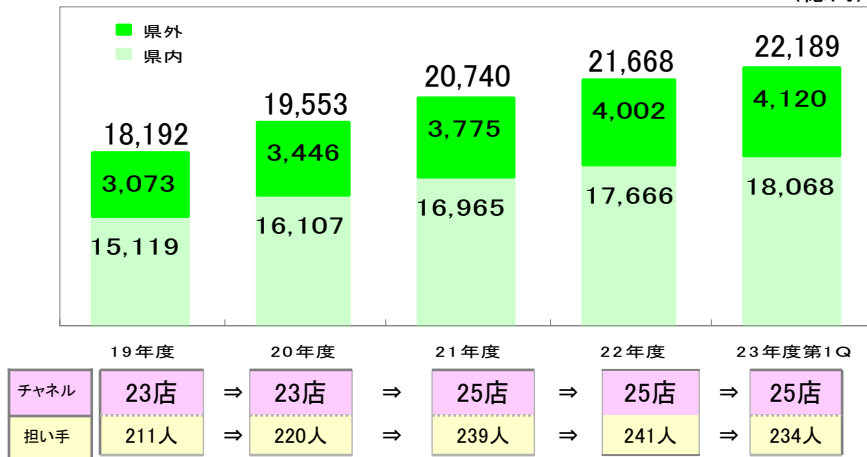


収益モデルの構築④ ～個人向け営業（消費者ローンの成長、預り資産）

- 住宅関連ローン分野では、営業拠点拡充や担当者増員等により競争力を高め、消費者ローン残高が2兆円を突破
- 預り資産販売では、富裕層担当者制度の導入、保険相談デスクの設置等を通じ、貯蓄性の個人年金保険で地銀トップクラスを維持

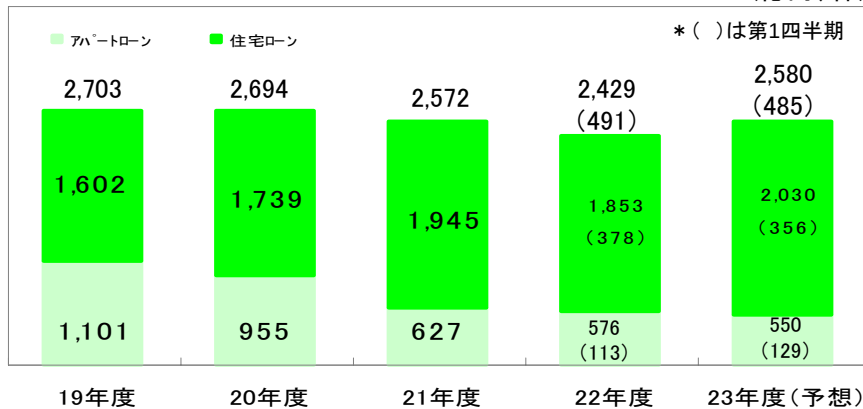
消費者ローン残高（平残）の推移

（億円）



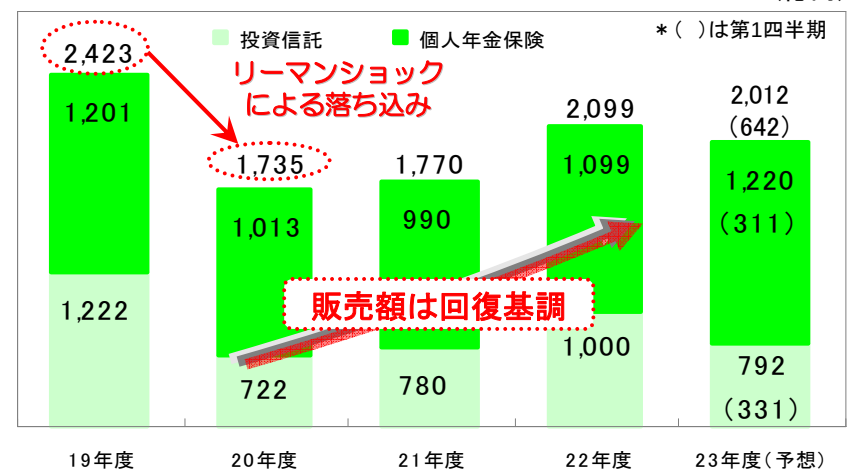
住宅関連ローン実行額の推移

（億円、件）



投資信託・保険商品販売額の推移

（億円）



預り資産販売強化に向けた取り組み

- 富裕層向け担当者制の開始（21年4月～）
- がん保険取次（21年2月～）、保障性保険（21年8月～）等、取扱商品の拡大
- 保険コンサルティング販売業務の開始および保険相談デスク設置（21年8月）
- 金融商品販売支援システムの全店稼働（23年1月）

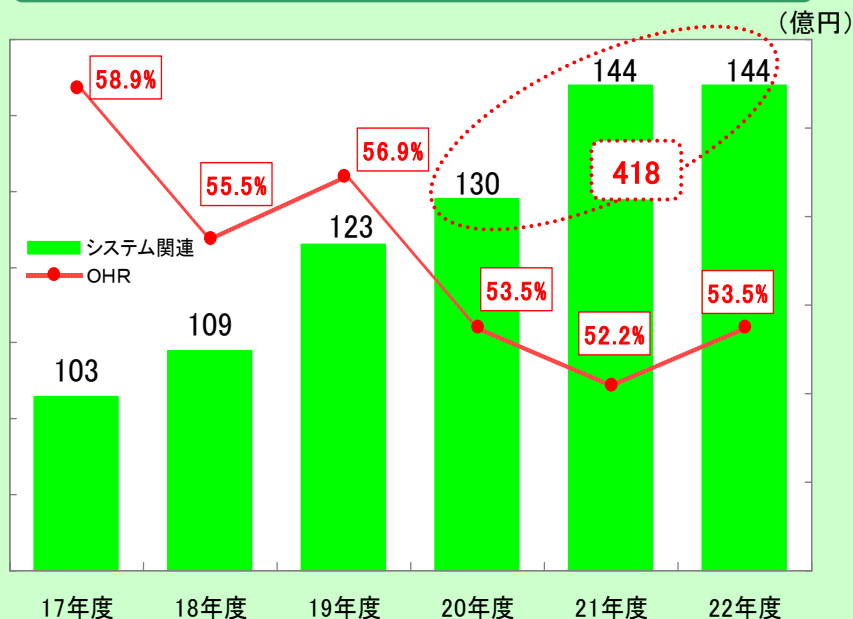
生産性の向上 ~ITインフラの整備、業務プロセス改革

第10次中計で目指した生産性向上

- 積極的な投資により業務プロセスを改革し、人員をフロント配置することで、トップラインの成長に結びつける

- 中計3年間で物件費の3割超にあたる418億円をシステム経費に充当し、ITインフラを整備
- 営業店の後方業務量を△57%削減する先進的なBPRを実現
- 営業店バック人員578名をフロントに再配置し、営業力を強化

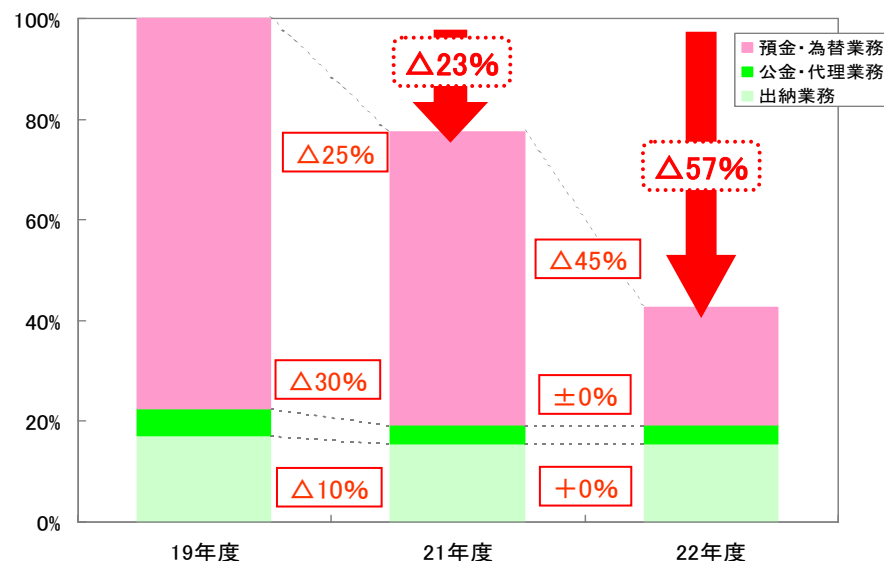
システム関連経費とOHRの推移



人員の推移

	20年 3月末	23年 3月末	20年 3月末比	26年3月 (予想)
営業店フロント	2,411	2,989	+578	3,116
うち行員	1,794	2,205	+411	2,325
営業店バック・アシスト	1,693	1,097	▲596	989
うち行員	548	90	▲458	35
本部・融資業務センター・その他	1,060	885	▲175	855
うち行員	509	560	+51	535
銀行全体	5,164	4,971	▲193	4,960
うち行員	2,851	2,855	+4	2,895
グループ総人員	7,037	7,067	+30	7,049

営業店における業務量削減



業種別貸出金

- 不動産業、建設業、物品賃貸業、貸金業・投資業等の事業性貸出金に占める割合はいずれも10%以下であり、これら業種への与信集中はない
- 事業性貸出金の予想損失額(EL)は全業種合計で120億円（不動産業10億円、建設業8億円）
- 事業性貸出金の信用リスク量(UL)は全業種合計で432億円

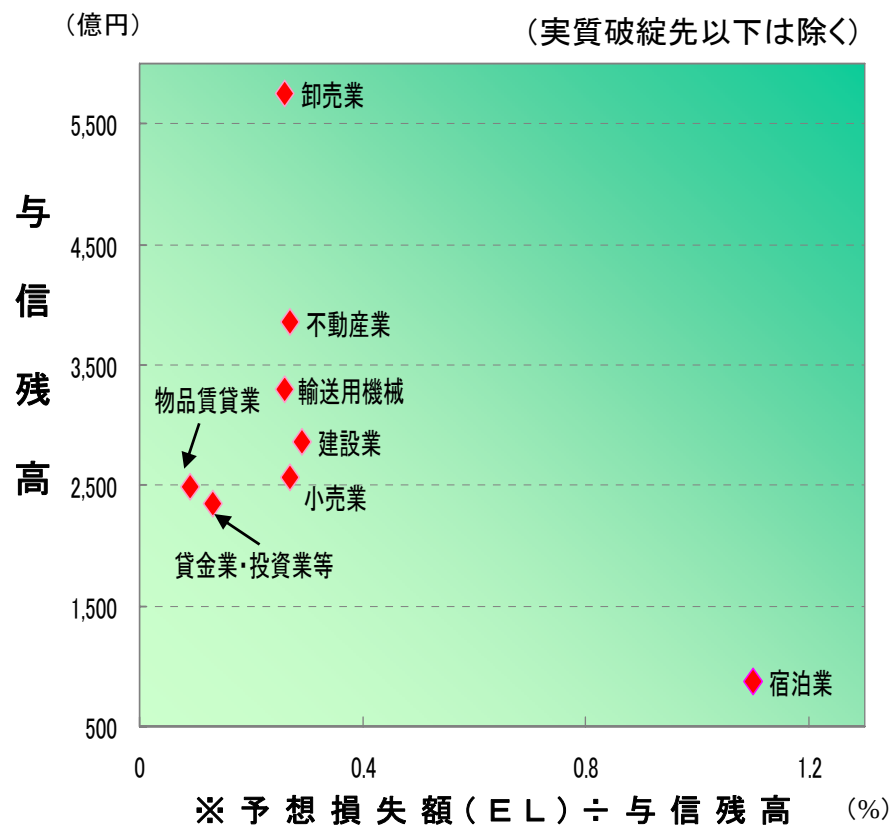
事業性貸出金に占める特定業種の状況

【与信残高(23年6月末)】

(億円、%)

	残高	構成比	23年3月末比
全 体	45,965	100.0	△1,360
不 動 産 業	3,851	8.4	+7
建 設 業	2,867	6.2	△286
物品賃貸業	2,490	5.4	△11
貸 金 業 ・ 投 資 業 等	2,356	5.1	△144
卸 売 業	5,750	12.5	△62
輸送用機械	3,303	7.2	△168
小 売 業	2,561	5.6	△81
宿 泊 業	868	1.9	+25

【与信残高対予想損失率(※)】



リスク資本配賦

- 23年度上期のリスク資本配賦額は5,951億円、うち信用リスク1,135億円、市場リスク1,784億円、オペレーショナルリスク243億円、バッファー資本等2,789億円を配賦
- リスク資本使用額は、支店営業部門491億円、トレジャリー部門1,067億円等

配賦原資		リスク資本 配賦額	リスク資本 使用額	リスク資本 使用率	
(億円)					
中核的な自己資本 5,951億円 (23年3月末基準)	信用リスク 1,135	支店営業部門	800	491	61%
	市場リスク 1,784	トレジャリー部門	2,051	1,067	52%
	オペレーショナルリスク 243	(うち政策投資株式)	(1,155)	(742)	(64%)
		(うち海外店)	(45)	(10)	(23%)
	バッファー資本等 2,789	連結子会社	68	34	50%
		オペレーショナルリスク	243	243	100%
		小 計	3,162	1,834	58%
		バッファー資本等	2,789	—	—
	合 計	5,951	1,834	31%	

※リスク資本使用額＝〈貸出金〉 | VaR | ＋不良債権処理額
〈投資有価証券〉 | VaR |

※リスク資本使用額＝〈貸出金〉 | VaR | ＋不良債権処理額
 〈投資有価証券〉 | VaR |
 〈その他〉 | VaR |

※中核的な自己資本＝普通株式＋内部留保－社外流出予定額－無形固定資産－前払年金費用等

※バッファー資本は、東海地震等非常時や計量化できないリスク等への備え

グループ会社の状況

- グループ会社（連結子会社11社）は、
経常収益123億円（前年同期比＋10億円）、経常利益18億円（同＋7億円）の増収増益

（億円）

会社名	業務内容	経常収益		経常利益	
			前年同期比		前年同期比
静銀経営コンサルティング(株)	経営コンサルティング業務	1	＋0	0	＋0
静銀リース(株)	リース業務	61	＋2	5	＋1
静岡コンピューターサービス(株)	コンピューター関連業務、計算受託業務	13	＋1	1	＋0
静銀信用保証(株)	信用保証業務	4	＋1	3	＋2
静銀ディーシーカード(株)	クレジットカード業務、信用保証業務	5	△0	1	＋0
静岡キャピタル(株)	株式公開支援業務、中小企業再生支援業務	1	△0	0	△0
静銀ティーエム証券(株)	金融商品取引業務	13	＋5	5	＋3
欧州静岡銀行	銀行業務・金融商品取引業務	2	＋1	0	＋0
静銀総合サービス(株)	労働者派遣業務等	8	△1	0	△0
静岡モーゲージサービス(株)	銀行担保不動産の評価・調査業務等	4	＋1	0	△0
静銀ビジネスクリエイト(株)	為替送信・代金取立等の集中処理業務等	12	＋0	0	△0
合 計（11社）		123	＋10	18	＋7
静銀セゾンカード(株) ※	クレジットカード業務、信用保証業務	3	＋0	0	＋1

※持分法適用関連会社、19年4月開業

本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。